

# 2019年3月期 決算説明会

## 決算総括および中期経営計画

代表取締役会長兼社長 CEO 家次 恒  
2019年5月9日

## <本プレゼンにおける掲載内容の変更について>

- 2019年3月期第3四半期までは所在地別にて掲載していましたが、今期より地域別での掲載へ変更しております。
- 所在地別の売上高、営業利益については、参考資料として掲載しております。

当社グループは、2017年3月期より国際会計基準（IFRS）を適用し、IFRSに準拠して開示しております。

本資料のうち、業績予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想数値と大きく異なる可能性があります。

# Index

1. 2019年3月期 決算総括
2. 前中期経営計画(2017年5月公表)の振り返り
3. 中期経営計画(2020年3月期～2022年3月期)
4. 2020年3月期 業績予想

(補足資料)

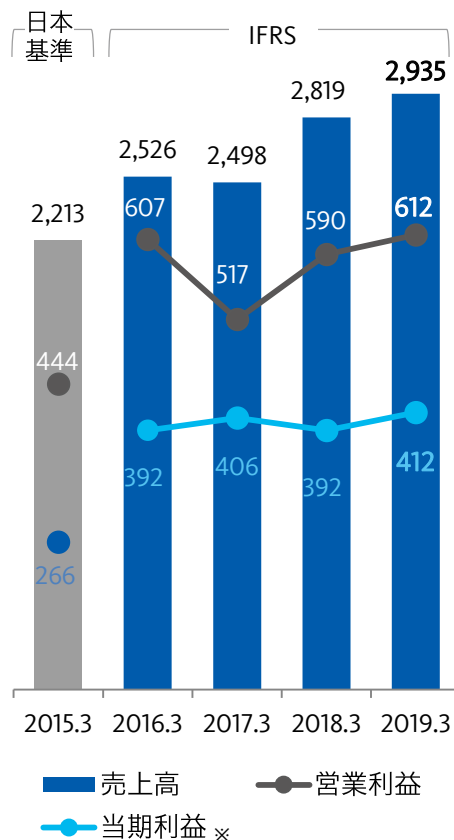
- ・ 2019年3月期決算
- ・ 中期経営目標

1.

## 2019年3月期 決算総括

# 決算総括

(億円)



※日本基準では親会社株主に帰属する当期純利益  
IFRSでは親会社の所有者に帰属する当期利益を記載

	2019年3月期	前年同期
1USD	<b>110.9円</b>	110.9円
1EUR	<b>128.4円</b>	129.7円
1CNY	<b>16.5円</b>	16.8円

(億円)

	2019年3月期		前年同期		前年同期比
	実績	構成比	実績	構成比	
売上高	<b>2,935.0</b>	<b>100%</b>	2,819.3	100%	<b>104.1%</b>
売上原価	<b>1,318.9</b>	<b>44.9%</b>	1,229.8	43.6%	<b>107.2%</b>
販売費及び一般管理費	<b>812.3</b>	<b>27.7%</b>	825.4	29.3%	<b>98.4%</b>
研究開発費	<b>195.7</b>	<b>6.7%</b>	167.5	5.9%	<b>116.9%</b>
その他の営業損益	<b>4.8</b>	<b>0.2%</b>	△5.7	△0.2%	-
営業利益	<b>612.8</b>	<b>20.9%</b>	590.7	21.0%	<b>103.7%</b>
親会社の所有者に帰属する当期利益	<b>412.2</b>	<b>14.0%</b>	392.2	13.9%	<b>105.1%</b>

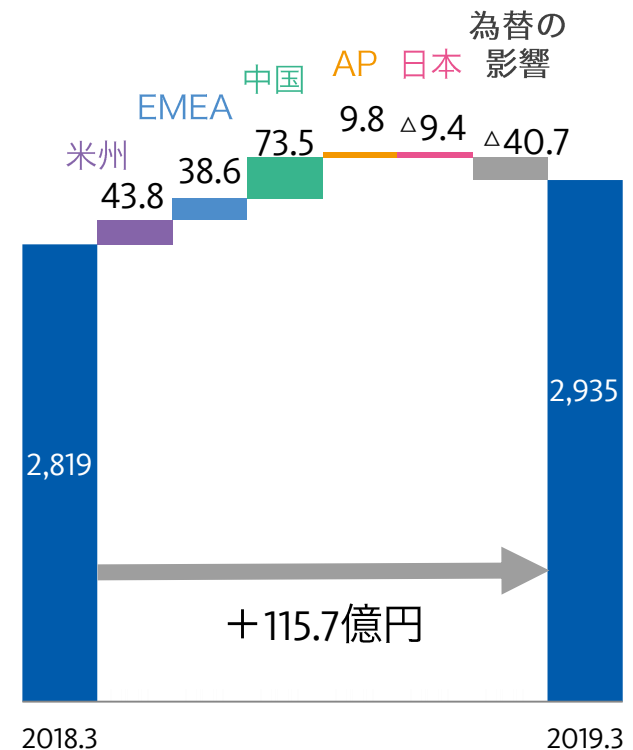
- **売上高** 各分野の試薬売上が継続的に伸長し、増収
- **営業利益** 増収効果による粗利益の増加や販管費の抑制により、増益
  - 為替の影響 売上高 △40.7億円 営業利益 +1.8億円
  - 前年同期為替レート適用の場合 売上高 105.5% 営業利益 103.4%
- **当期利益** 為替差損等の影響があるも、税負担率低下等により、増益
  - 為替差損益 △15.8億円 (前年同期：△3.1億円)
- **設備投資 (有形)** 200.0億円
- **減価償却費** 158.4億円

# 売上高の増減要因（地域別）

（億円）

	2019年3月期		前年同期比	
	実績	構成比	円貨	現地通貨
売上高	<b>2,935.0</b>	<b>100.0%</b>	<b>104.1%</b>	-
米州	<b>705.1</b>	<b>24.0%</b>	106.3%	<b>106.1%</b>
EMEA	<b>756.7</b>	<b>25.8%</b>	102.4%	<b>103.6%</b>
中国	<b>782.1</b>	<b>26.7%</b>	108.5%	<b>110.1%</b>
AP	<b>250.2</b>	<b>8.5%</b>	<b>102.0%</b>	-
日本	<b>440.7</b>	<b>15.0%</b>	<b>97.9%</b>	-

## 地域別売上高



### ● 新興国の売上高構成比率

2018年3月期	2019年3月期
39.2%	<b>39.5%</b>

# 事業別・品目別売上高



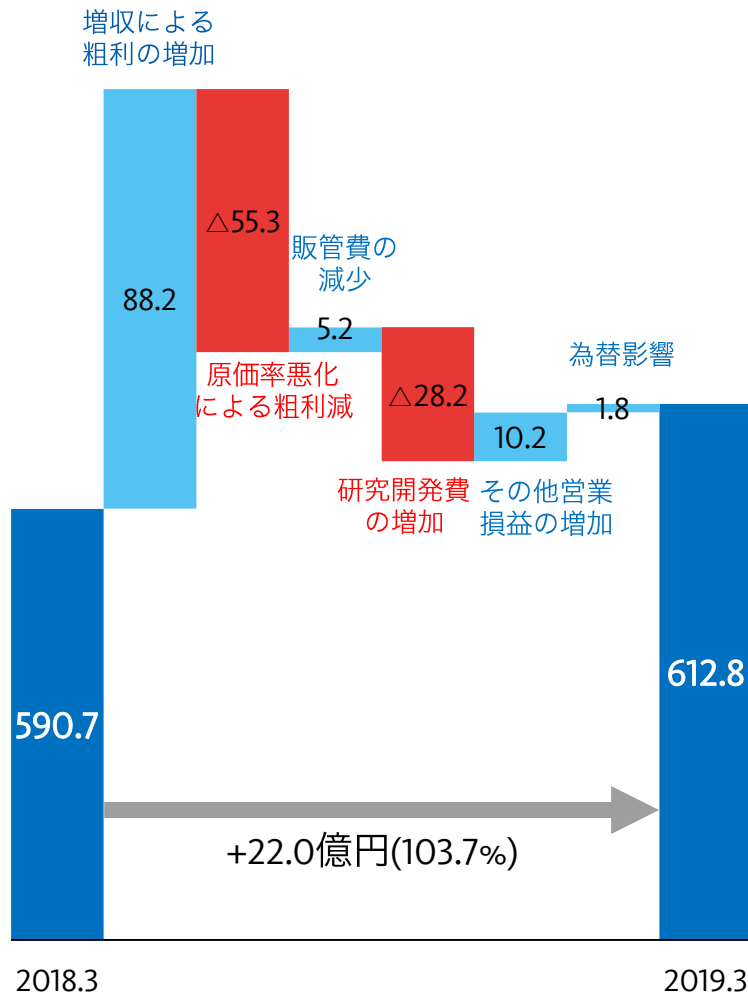
		2019年3月期		前年同期		前年同期比	参考：前年同期比 (前期レート)
		実績	構成比	実績	構成比		
事業別	ヘマトロジー	1,816.9	61.9%	1,748.4	62.0%	103.9%	105.3%
	尿	210.7	7.2%	206.2	7.3%	102.2%	104.0%
	HU事業	2,027.6	69.1%	1,954.6	69.3%	103.7%	105.2%
	免疫	139.2	4.7%	111.9	4.0%	124.4%	126.0%
	生化学	31.9	1.1%	32.6	1.2%	97.6%	99.0%
	凝固	479.4	16.3%	450.0	16.0%	106.5%	108.0%
	ICH事業	650.6	22.2%	594.6	21.1%	109.4%	110.9%
	コア事業	2,678.2	91.3%	2,549.2	90.4%	105.1%	106.5%
	FCM事業	15.3	0.5%	16.1	0.6%	95.5%	97.3%
	LS事業	102.5	3.5%	89.5	3.2%	114.5%	116.1%
	その他	0.5	0.0%	0.1	0.0%	371.4%	371.4%
	ネクストコア事業	118.4	4.0%	105.8	3.8%	111.9%	113.0%
	その他 <sup>※1</sup>	138.3	4.7%	164.2	5.8%	84.2%	85.6%
	売上高 計	2,935.0	100.0%	2,819.3	100.0%	104.1%	105.5%
品目別	機器	826.6	28.2%	838.3	29.7%	98.6%	99.8%
	試薬	1,678.2	57.2%	1,580.7	56.1%	106.2%	107.8%
	サービス <sup>※2</sup>	345.8	11.8%	311.5	11.1%	111.0%	112.1%
	その他	84.2	2.9%	88.6	3.1%	95.0%	96.7%

※1 臨床検査情報システム、仕入れ商品等。

※2 中国地域において、2019年3月期2Qまで「試薬」および「その他」に計上していた一部売上を、2019年3月期3Qより「サービス」に組み替えています。

## 営業利益

(億円)



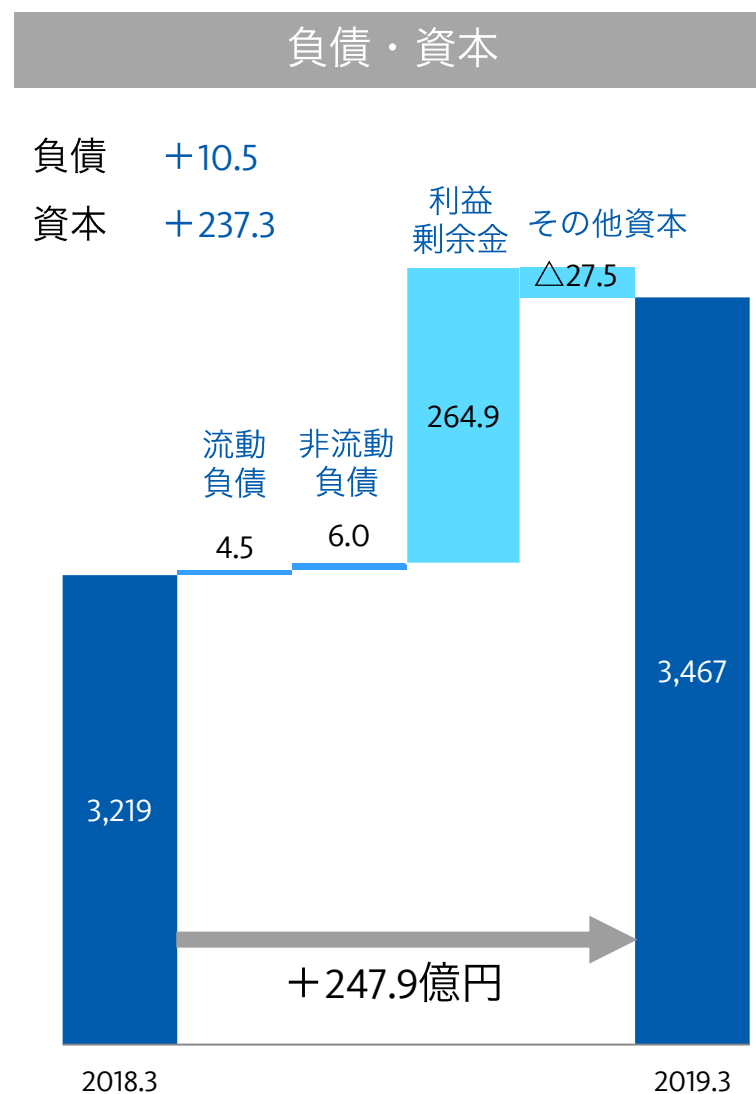
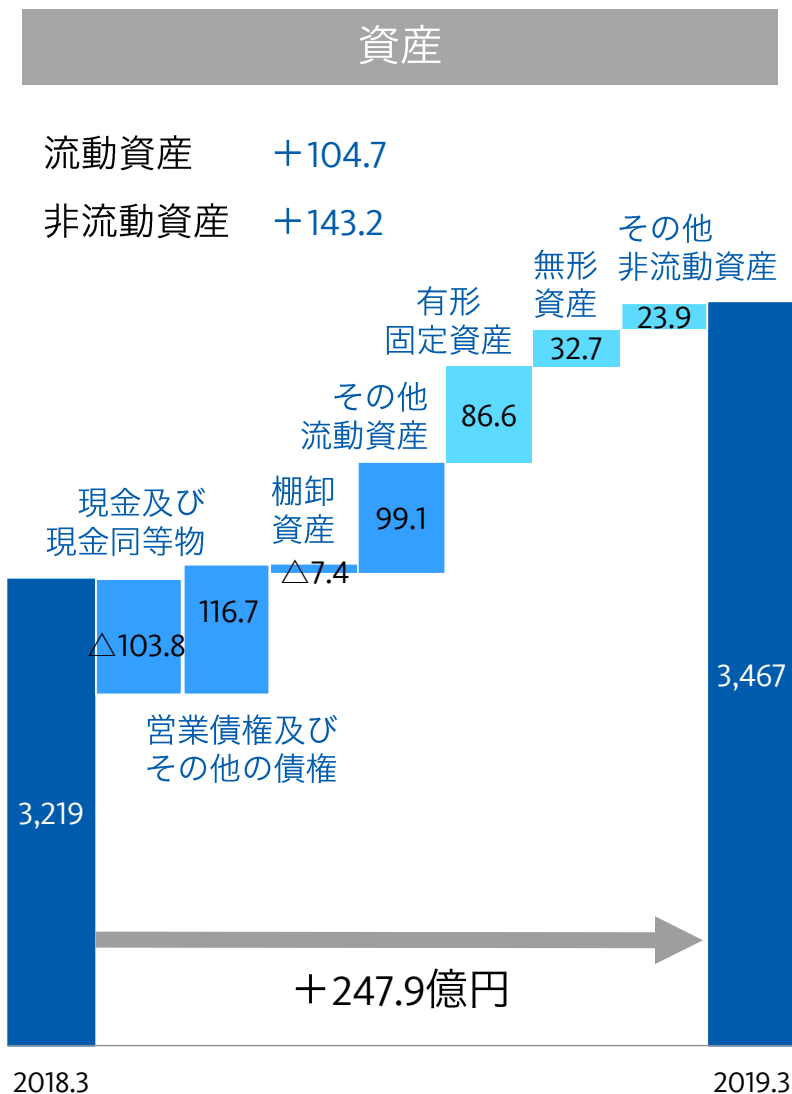
増収効果による粗利益の増加や販管費の抑制により、営業利益は22億円の増益

- 増収効果により粗利益が88億円増加（為替影響除く）
- 販管費は、抑制効果や前年同期の特殊要因もあり5.2億円減少（為替影響除く）
- 原価率は、中国のサービス委託費組替や前年度特殊要因等により、1.3%悪化
- 研究開発費は、ライフサイエンス事業への投資などを中心に28億円増加。対売上高比率は6.7%に上昇
- 前年同期の特殊要因
  - ✓ 関係会社（Partec）の減損損失により、その他営業損益に10.7億円のマイナス影響
  - ✓ 厚生年金基金解散の影響により原価や販管費、研究開発費が減少し、営業利益に16.6億円のプラス影響



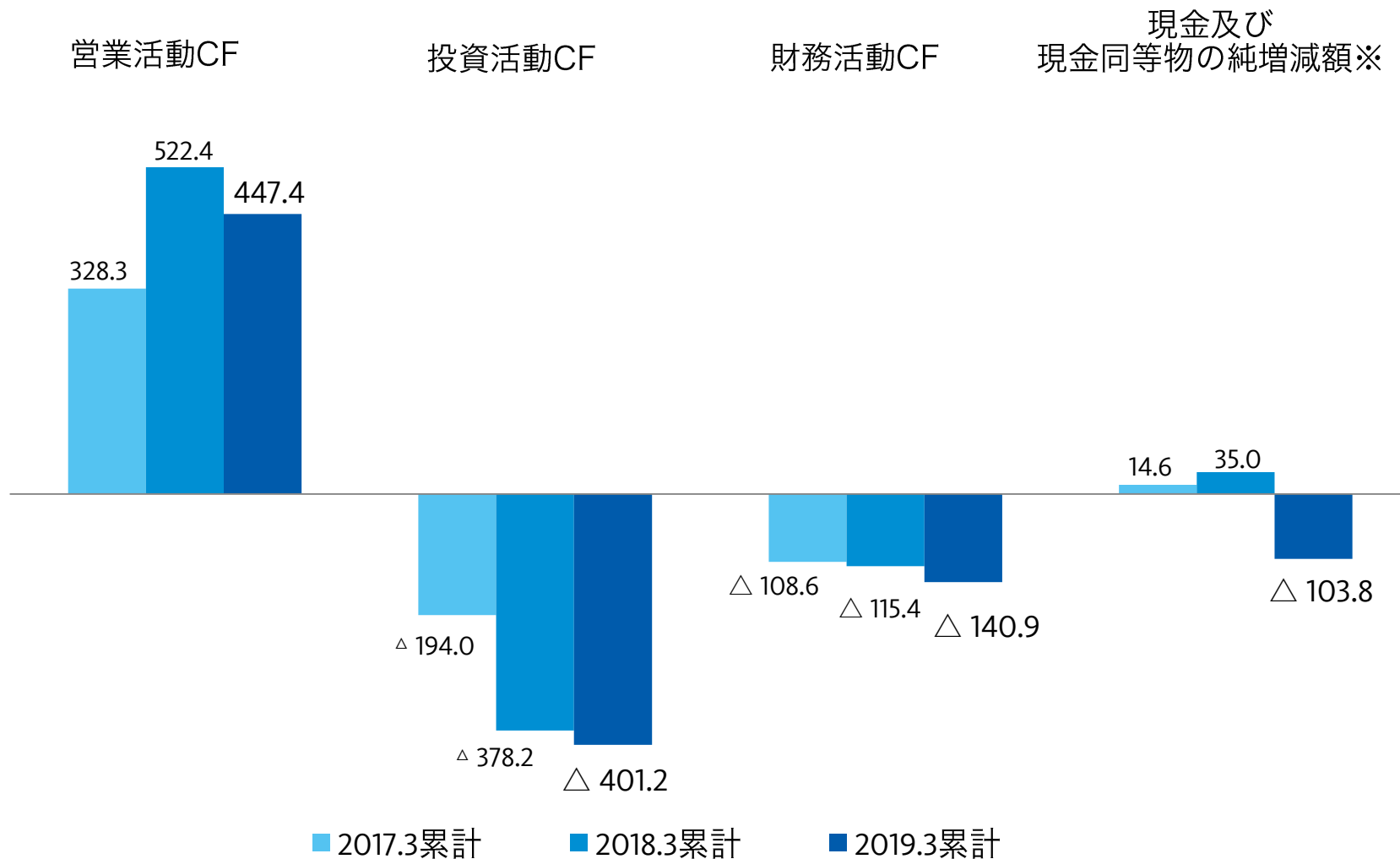
# 連結財政状態計算書の増減要因

(億円)



# キャッシュフローの推移

(億円)



※現金及び現金同等物に係る換算差額も含まれております

## IVD事業

- 「全自動血液凝固測定装置 CN-6000/CN-3000」を発売
- 中国におけるロックダウン生産方式を採用したXSシリーズを発売
- 新たなネットワークソリューション「Caresphere」の提供を開始
- マラリアの早期発見・早期治療に貢献するXN-31がCEマークを取得
- Sysmex Partecの「CyFlow Counter System」がWHO事前認証を取得



Automated Hematology Analyzer XN-31

## ライフサイエンス事業

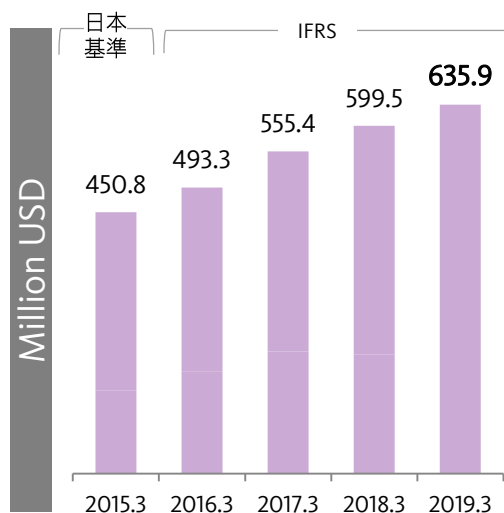
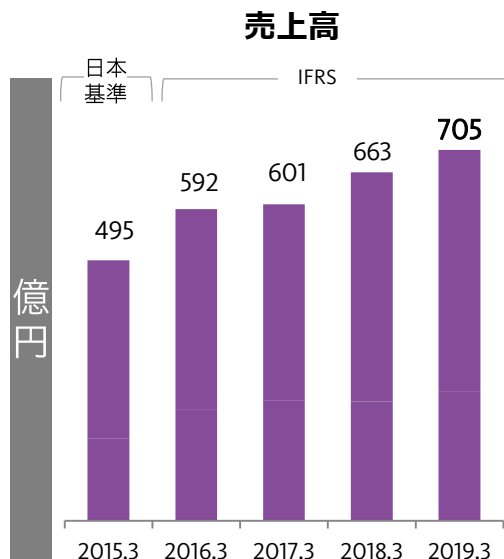
- OSNA法を用いた「遺伝子増幅検出装置 RD-200」「リノアンプCK19」を発売
- 理研ジェネシスが「Todai OncoPanel」のシーケンス解析を実施
- がんゲノムプロファイリング検査用「OncoGuide NCCオンコパネルシステム」の製造販売承認を取得
- 研究用の新製品上市、受託サービスの開始
  - ・凸版印刷・理研ジェネシスと「研究用遺伝子測定装置LW-100」を市場導入
  - ・「研究用1分子蛍光顕微鏡 HM-1000」を発売
  - ・「HDL機能測定」の研究受託サービス開始
  - ・FISH検査を自動化するMI-1000を研究用として市場導入



シスメックス エジプト

## その他

- イノベーションの早期創出に向けグローバルR&D体制を強化
- エジプトに現地法人を設立し、直接販売・サービスを開始
- 「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックス」に3年連続選定



(億円)	2019年3月期	前年同期	前年同期比	
			(円ベース)	(現地通貨ベース)
売上高	<b>705.1</b>	663.5	<b>106.3%</b>	106.1%
機器	<b>245.7</b>	227.6	<b>107.9%</b>	107.6%
試薬	<b>292.3</b>	274.8	<b>106.4%</b>	106.2%
サービス その他	<b>167.1</b>	161.0	<b>103.8%</b>	103.6%

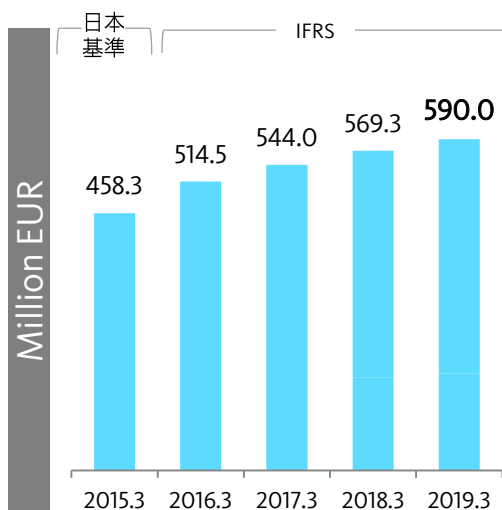
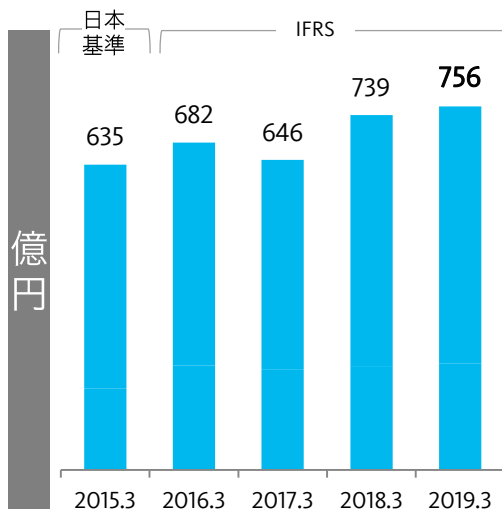
## 米国のヘマトロジー、凝固分野における伸張が中南米やカナダの減収を補い、増収

- 機器は、中南米において代理店向け売上が減収したことに加え、カナダで前年度大型案件の影響により減収となるも、米国のヘマトロジーや凝固分野の売上が伸長し、増収
- 主に米国ヘマトロジー機器の設置台数増加に伴い、試薬売上伸長

## トピックス

- CLIA Waived市場向けXW-100の販促を第4四半期より再開 (米国)
- 中南米における尿分野の直販がブラジル、コロンビア、チリなどで伸長し、堅調に推移

## 売上高



(億円)	2019年3月期	前年同期	前年同期比	
			(円ベース)	(現地通貨ベース)
売上高	<b>756.7</b>	739.2	<b>102.4%</b>	103.6%
機器	<b>221.4</b>	214.8	<b>103.1%</b>	104.4%
試薬	<b>418.4</b>	409.7	<b>102.1%</b>	103.3%
サービス その他	<b>116.8</b>	114.6	<b>102.0%</b>	103.1%

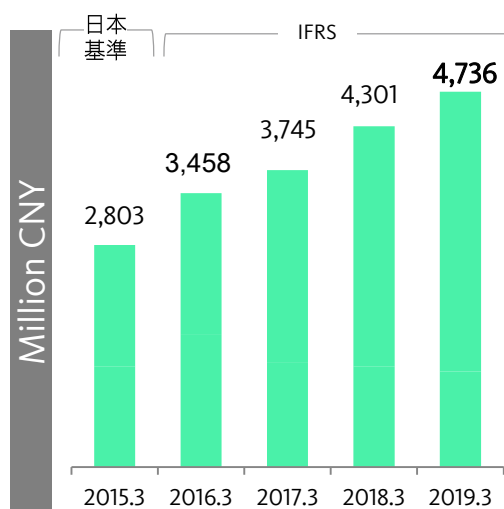
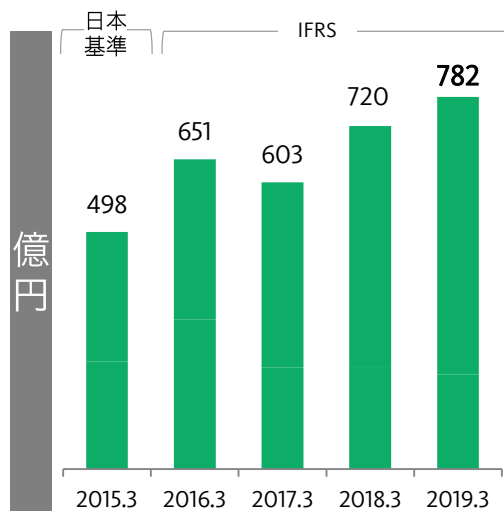
新興国通貨安の影響が継続するも、ヘマトロジー分野、ライフサイエンス分野の売上が堅調に推移し、増収

- 機器は、フランス、イギリス、イタリア等におけるヘマトロジー分野の売上伸張、スペインでのOSNA新製品 (RD-210) の販売が好調に推移し、増収
- ヘマトロジー機器の設置台数増加に伴い、試薬売上が伸長

### トピックス

- イギリス、フランスにおいて尿分野の直販を開始
- ロシア、トルコでは、通貨安の影響を除けば大幅に売上伸張
- アライアンスパートナー向け凝固機器売上は引き続き停滞

## 売上高



(億円)	2019年3月期	前年同期	前年同期比	
			(円ベース)	(現地通貨ベース)
売上高	<b>782.1</b>	720.8	<b>108.5%</b>	110.1%
機器	<b>199.9</b>	212.5	<b>94.1%</b>	95.0%
試薬	<b>531.9</b> ※	482.9	<b>110.1%</b>	112.0%
サービス その他	<b>50.2</b> ※	25.4	<b>197.4%</b>	201.8%

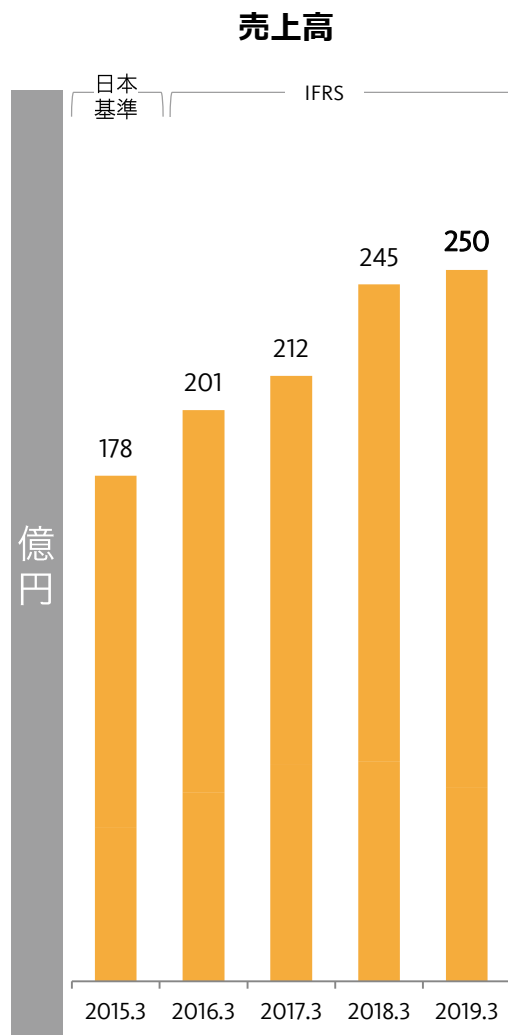
※「試薬」および「その他」に計上していた一部売上を、2019年3月期3Qより「サービス」に組み替え

## 各分野において試薬売上の伸長が機器売上の減少を補い、増収

- 機器は免疫分野が好調も、ヘマトロジーや凝固分野の減収等により全体では減収
- 感染症試薬を中心に免疫試薬が伸長したことや、凝固試薬の売上が継続的に伸長し、試薬売上は伸長

## トピックス

- 2級病院市場を対象としたヘマトロジー搬送システム（CRP測定対応）を販売開始
- ノックダウン生産によるXS-500ixの販売は堅調に推移



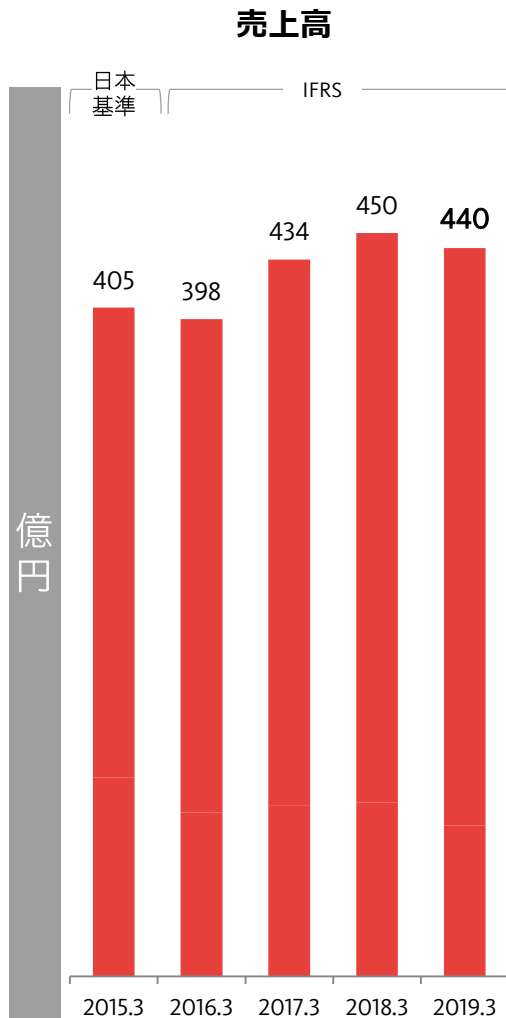
(億円)	2019年3月期	前年同期	前年同期比 (円ベース)
売上高	<b>250.2</b>	245.4	<b>102.0%</b>
機器	<b>68.5</b>	77.5	<b>88.3%</b>
試薬	<b>158.4</b>	146.3	<b>108.2%</b>
サービス その他	<b>23.3</b>	21.4	<b>108.6%</b>

## タイなどが伸長した東南アジアが南アジアの減収を補い、増収

- 前年度の南アジア大型案件や、インドにおけるヘマトロジー販売体制変更の影響により、機器は減収
- ヘマトロジー試薬に加え、機器設置台数が増加している免疫分野の試薬売上が伸長し、試薬は増収

## トピックス

- インドにおけるヘマトロジー販売体制を変更、4月より新体制でのオペレーションを開始
- インドネシアでは、国民皆保険制度の財源不足により引き続き市況が停滞
- 免疫分野は各国において機器の設置が進み、伸長



(億円)	2019年3月期	前年同期	前年同期比 (円ベース)
売上高	<b>440.7</b>	450.1	<b>97.9%</b>
機器	<b>91.0</b>	105.7	<b>86.0%</b>
試薬	<b>277.0</b>	266.6	<b>103.9%</b>
サービス その他	<b>72.5</b>	77.7	<b>93.4%</b>

## 前年度の合併会社解消の影響を除外すると、実質は増収

- 機器は、前年度の合併会社解消の影響に加え、今期はヘマトロジー搬送システム案件数が減少した影響により減収
- 免疫分野の試薬売上や、ライフサイエンス分野における試薬や受託サービス売上が伸長し、増収

## トピックス

- NCCオンコパネル製造販売承認を12月に取得
- 凝固分野の新製品、CNシリーズを販売開始



2014年3月期以降に子会社化した4社のうち3社は営業赤字も、改善傾向

- Inostics : 臨床用途の受託アッセイサービスを強化し、収益改善を見込む（OncoBEAM保険償還等）
- Partec : クリニカルFCM製品の開発完了、今後の市場導入により2020年3月期に黒字化を計画
- 理研ジェネシス : NCCオンコパネルの保険適用による受託件数増加等により、2020年3月期の黒字化を計画
- OGT : FISH試薬を中心として堅調に推移、営業黒字を継続

(億円)

		2019年3月期 実績	2018年3月期 実績	前年同期比
Inostics	売上高	15.2	18.2	△3.0
	営業利益	△9.1	△14.4	+5.3
Partec	売上高	20.4	15.6	+4.8
	営業利益	△1.7	△6.7	+5.0
理研ジェネシス	売上高	22.5	18.8	+3.7
	営業利益	△1.4	△3.7	+2.3
OGT※	売上高	37.1	25.4	+11.7
	営業利益	6.1	2.8	+3.3

※Oxford Gene Technology社は2017年7月から子会社化

- ・ 2018年3月期に対し、年間で4円の増配
- ・ 年初計画に対し、2円の増配

	中間	期末	年間	配当性向
2018年3月期	30 円	36円 <sup>※</sup>	66円	35.1 %
2019年3月期 (案)	34円	36円 <sup>※※</sup>	70円	35.4 %

※ 創立50周年記念配当6円含む  
 ※※第52回定時株主総会に付議する予定

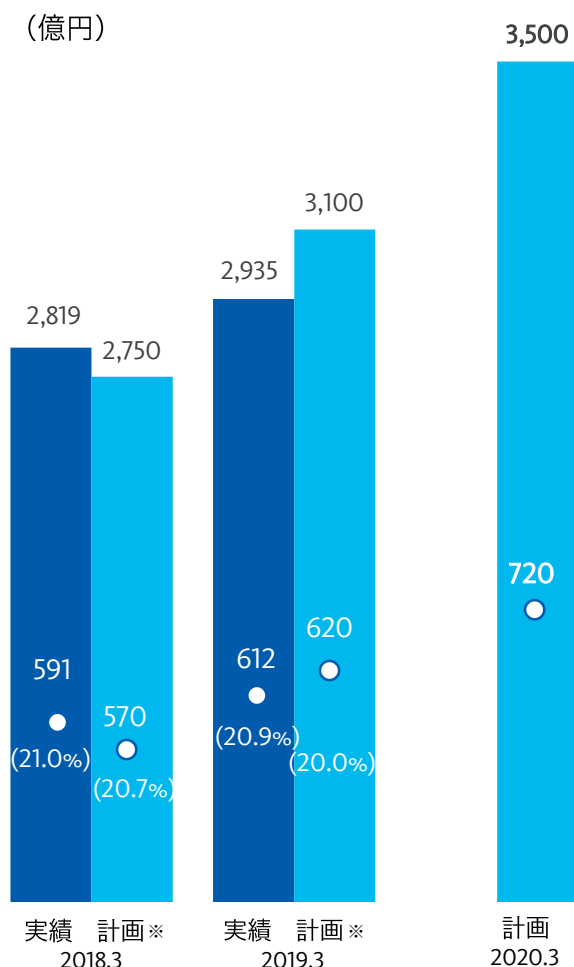
# (参考) 所在地別実績 (売上高・営業利益)

		2019年3月期	前年同期	前年同期比	
				円貨	現地通貨
米州	外部売上高	659.5	625.5	105.4%	105.3%
	営業利益	35.8	55.3	64.7%	64.4%
EMEA	外部売上高	776.0	755.4	102.7%	104.0%
	営業利益	70.9	49.7	142.6%	144.0%
中国	外部売上高	781.1	720.1	108.5%	110.1%
	営業利益	91.2	83.2	109.6%	110.6%
AP	外部売上高	247.5	244.0	101.4%	-
	営業利益	31.1	31.6	98.3%	-
日本※	外部売上高	470.7	474.1	99.3%	-
	営業利益	389.9	378.5	103.0%	-

※IDEXX社等含む外部売上高

## 2. 前中期経営計画(2017年5月公表)の 振り返り

## 2019年3月期業績は計画未達も、高い収益力を持続



2019年3月期売上は期初計画を下回るも、増収を継続

- 計画未達要因
  - 品質不具合による一部製品の出荷遅延
  - アライアンスパートナー向け販売停滞
  - 新製品の薬事認可取得遅れ（米国尿新製品など）
  - ヘマトロジー分野の機器買い替えサイクルの長期化
  - クリニカルFCM製品の市場導入遅れ
  - 中国市場の変化（国産優遇拡大、リース取引規制等）
  - 為替の影響（新興国通貨安など）

営業利益は高い収益性を持続

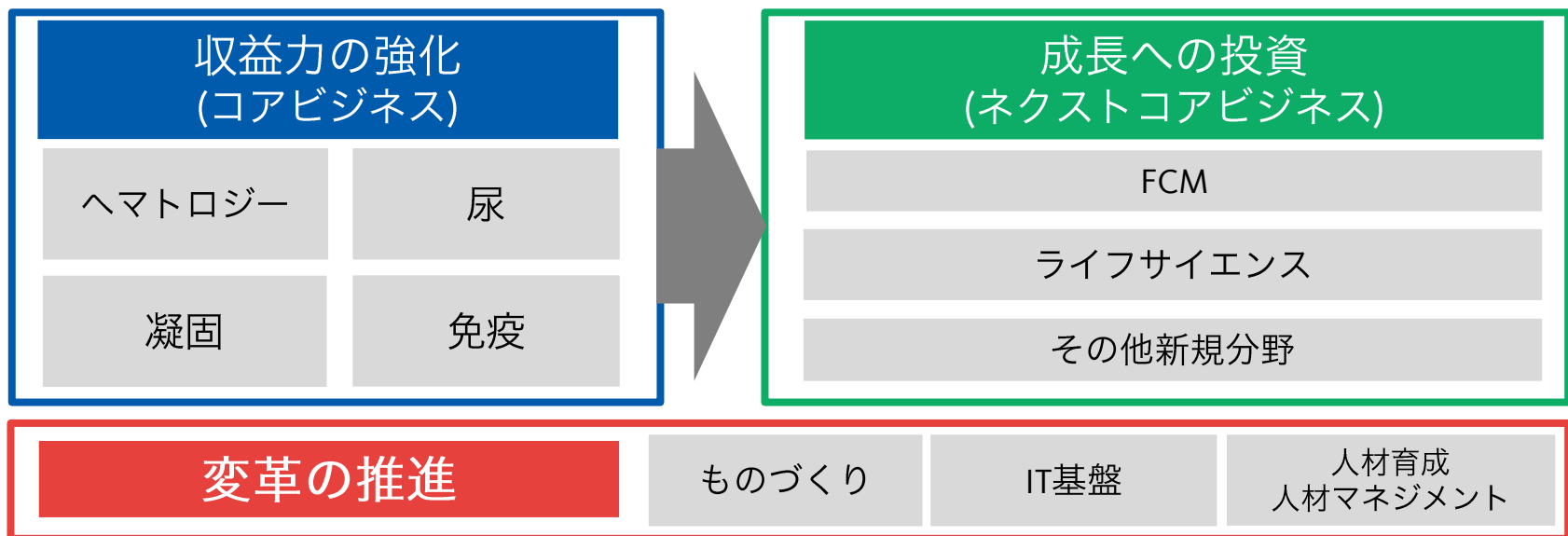
- 安定的な試薬売上を背景に、営業利益率は20%以上を継続

■ 売上高  
○ 営業利益  
( )は営業利益率  
※計画は期初予想

## 前中期経営計画の振り返り (2)

### 成長への投資を推進し、将来へ向けた基盤を強化

- ヘマトロジー分野を中心に高い収益力を持続し、ネクストコアへの投資を推進
  - クリニカルFCM製品開発完了
  - NCCオンコパネルシステム製造販売承認取得
  - 研究用として製品の上市（超解像蛍光顕微鏡HM-1000、高感度免疫測定装置HI-1000、イメージングフローサイトメーターMI-1000, クリニカルPCR装置 LW-100など）
- バイオ診断薬拠点設立など、変革の推進へ向けた投資を計画通り推進



3.

## 中期経営計画 (2020年3月期～2022年3月期)

## ヘルスケア市場は堅調に拡大

### 外部環境の変化

#### 市場の拡大

- ・ 患者数の増加および分級制度の推進（中国）
- ・ 低所得者向け補助拡大（インド）
- ・ 国民皆保険制度の普及（インドネシア）
- ・ 医療基盤整備への投資（アフリカ等）

#### 医療の効率化

- ・ 検査センターの統廃合（フランス）
- ・ 診療報酬削減（米国など）

#### 法規制の変化

- ・ IVD-Rの施行（欧州体外診断用医療機器規則）
- ・ 独自規制の開始（主に新興国）

#### 技術革新の実用化

- ・ AI搭載医療機器の認可（米国・日本など）
- ・ がんゲノム医療の本格的な開始（先進国全般）

新興国におけるビジネス  
機会の増加

医療効率化への需要増加

薬事規制の厳格化  
参入障壁の上昇

新たな検査の普及  
（主に先進国）



長期経営目標達成へ向け、重要な取り組みを着実に実行

長期経営目標  
(2025)

## 持続的な成長に向けた重点課題

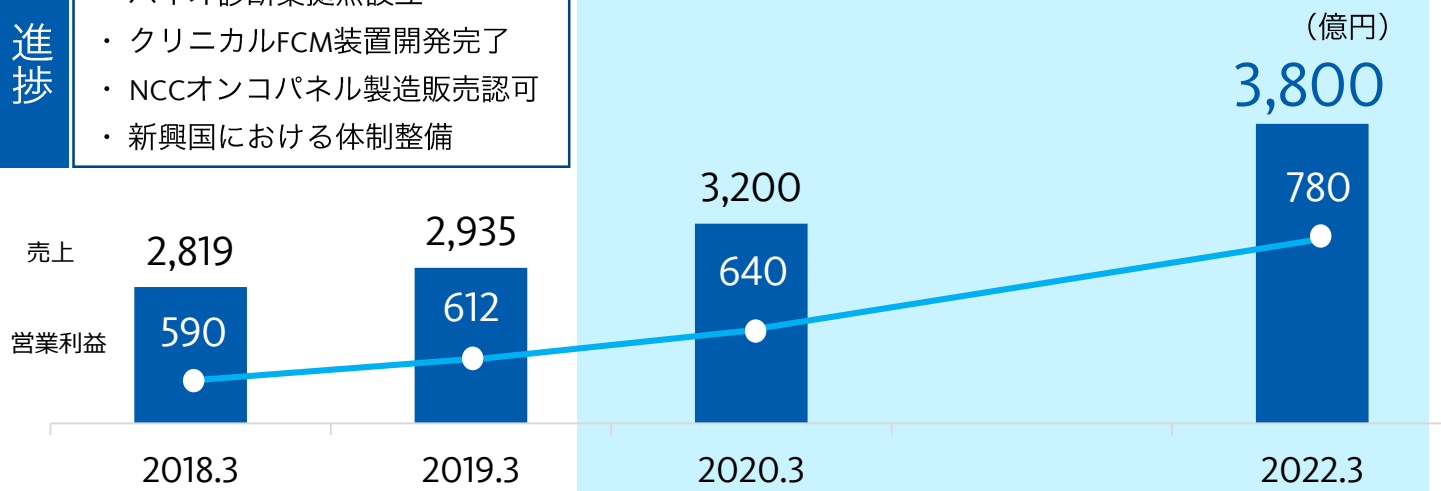
1. IVD事業の成長力再強化
2. ライフサイエンス事業化スピードの加速
3. 品質 / 品質保証機能の強化
4. 事業を支える薬事/臨床開発機能の強化
5. デジタル化によるビジネスプロセス改革
6. 人材マネジメントの変革

中長期の成長を支える  
基盤・体質の強化

【2022年3月期目標】

売上高 : 3,800 億円  
 営業利益 : 780 億円  
 (20.5%)  
 ROE : 18.0 %  
 フリーCF : 400 億円  
 営業CF : 750 億円

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IVD機器売上の一時的な停滞</li> <li>・ ライフサイエンス事業化進捗</li> <li>・ 薬事承認難易度の上昇</li> <li>・ 品質不具合の発生</li> </ul>
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バイオ診断薬拠点設立</li> <li>・ クリニカルFCM装置開発完了</li> <li>・ NCCオンコパネル製造販売認可</li> <li>・ 新興国における体制整備</li> </ul>



+708億円  
(CAGR 7.7%)

3,540億円

80  
35

140

255

255

615

2,160

2,831億円

その他  
FCM 15  
生化学 31  
免疫

141

139

210

479

1,816

2019.3

2022.3

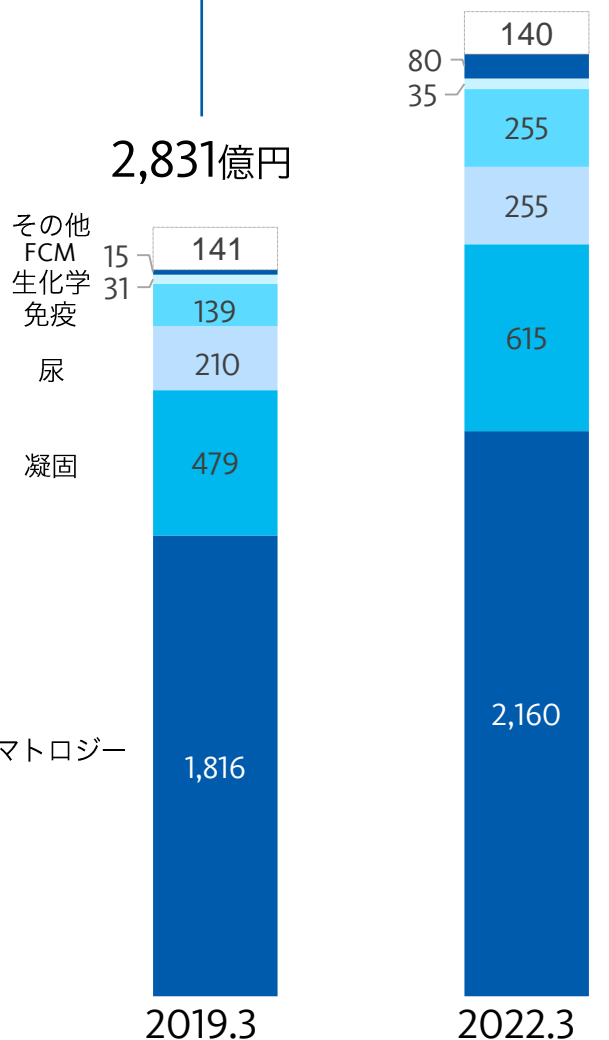
## IVD商品開発力強化へ向けた取り組み

- IVD領域における技術ロードマップの拡充
- 開発業務プロセス変革による新製品開発スピード向上
- IVD領域へのリソース配分の強化

## ヘマトロジー分野

- 先進国市場におけるシェア拡大
  - Caresphere導入加速による機器販売の強化
  - 次世代機市場導入による市場競争力強化
  - XW-100による米国プライマリケア市場攻略
- 新興国市場における機会獲得
  - 中国2級病院以下の攻略
  - 新興国における販促強化（インド、ブラジル、ロシア、トルコなど）
  - 下位市場向け新製品開発による競争力強化

+708億円  
(CAGR 7.7%)  
→ 3,540億円



## 凝固分野

- 新製品CNシリーズ導入加速によるNo.1ポジション強化
- アライアンス活用及び自社開発試薬ポートフォリオ拡充

## 尿分野

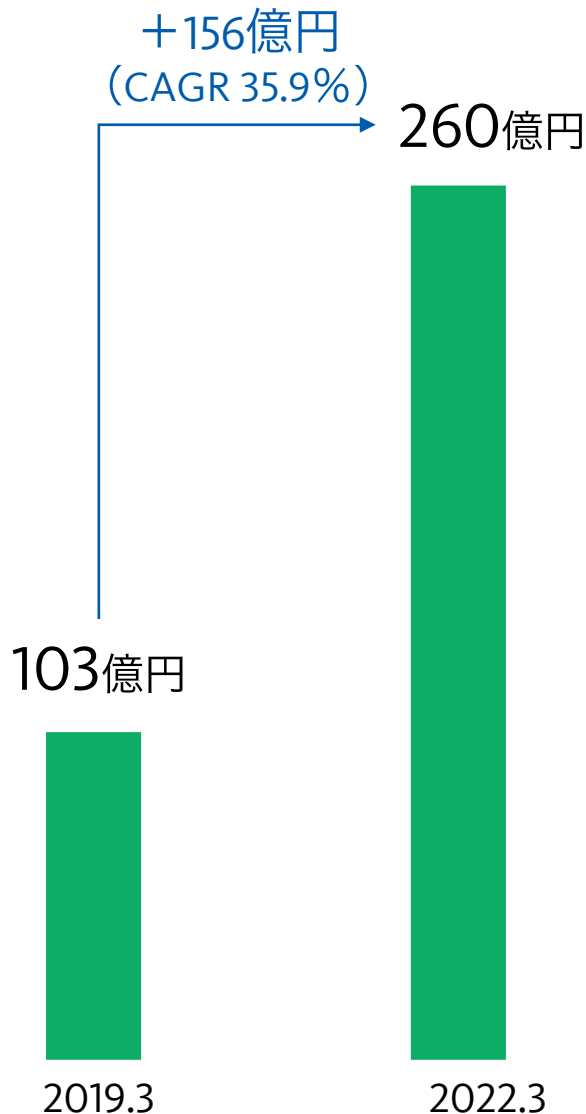
- 新製品UNシリーズの販促強化による設置台数増加および試薬売上の拡大

## 免疫分野

- 中国、日本、アジア諸国におけるHISCL設置台数の増加および試薬認可項目増加による売上拡大
- 中国における試薬開発の強化

## FCM分野

- クリニカルFCM製品のグローバル市場導入
- ヘマトロジー分野とのシナジー発揮による競争優位性の確立



## ライフサイエンス事業における取り組み

- OSNAの価値向上とグローバル展開
  - 対象がん種の拡大
  - 新製品 (RD-210) のEMEAにおける販促強化
  - 中国における市場導入
- OGTとのシナジーによるFISH試薬の売上拡大
  - FISH試薬の販売地域の拡大 (日本、中国など)
  - フローFISHのグローバル市場導入
- がんゲノム医療におけるプレゼンス強化
  - NCCオンコパネル保険適用による受託件数増加
- リキッドバイオプシー検査市場への参入
  - OncoBEAM RAS IVD取得、PSSのLDT<sup>\*</sup>上市等
  - 高感度HISCLの臨床アプリケーション拡大
  - CTC (血中循環がん細胞) 測定システムのLDT上市

※LDT : Laboratory Developed Test

## バイオ診断薬拠点稼働、診断薬の進化へ

### バイオ診断薬拠点

- 2019年4月稼働

バイオ原料の安定確保

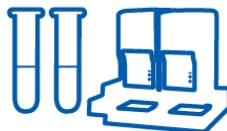
バイオ診断薬の  
品質・性能向上

新規項目の開発加速

生産リードタイムの短縮



### IVD事業



ヘマトロジー

尿

凝固

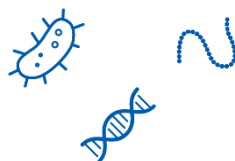
免疫

生化学

FCM

### LS事業

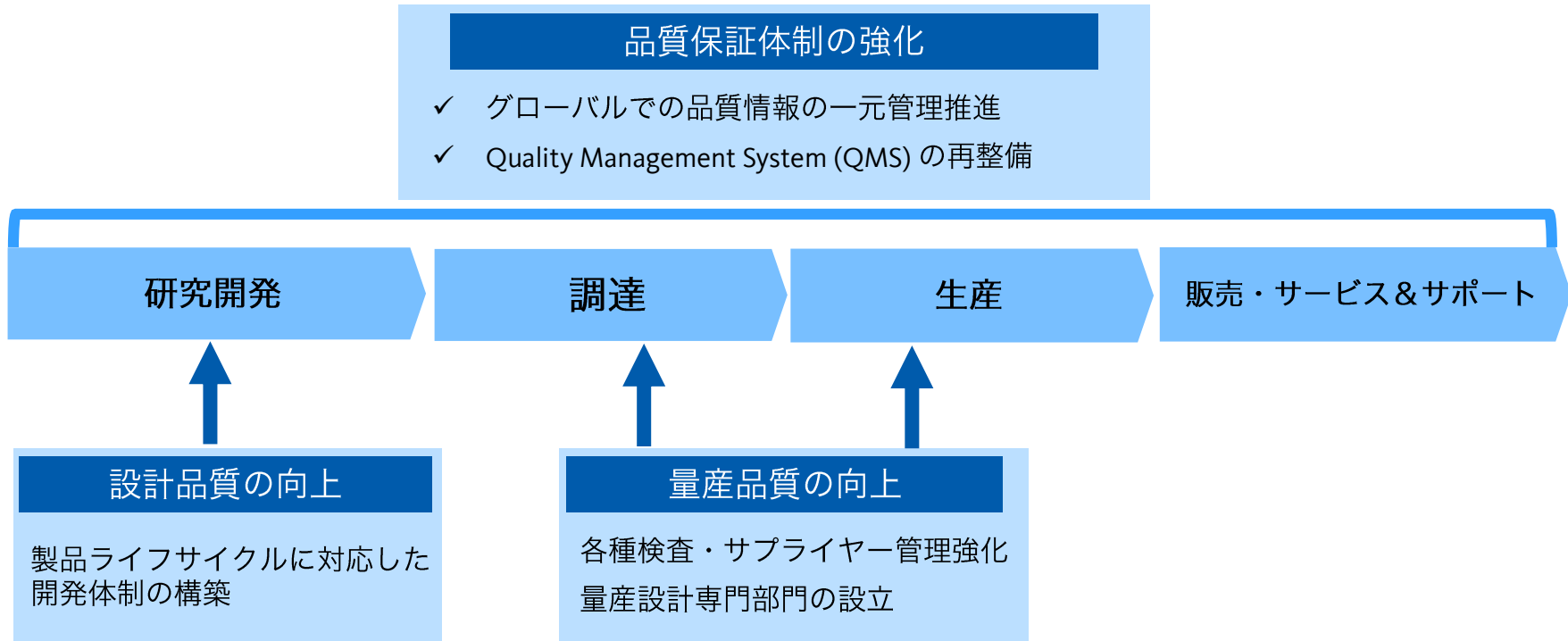
ライフサイエンス



診断薬開発、  
生産機能を強化

事業化スピードを  
加速

- 「責任ある製品・サービスの提供」へ向けた品質保証機能の強化

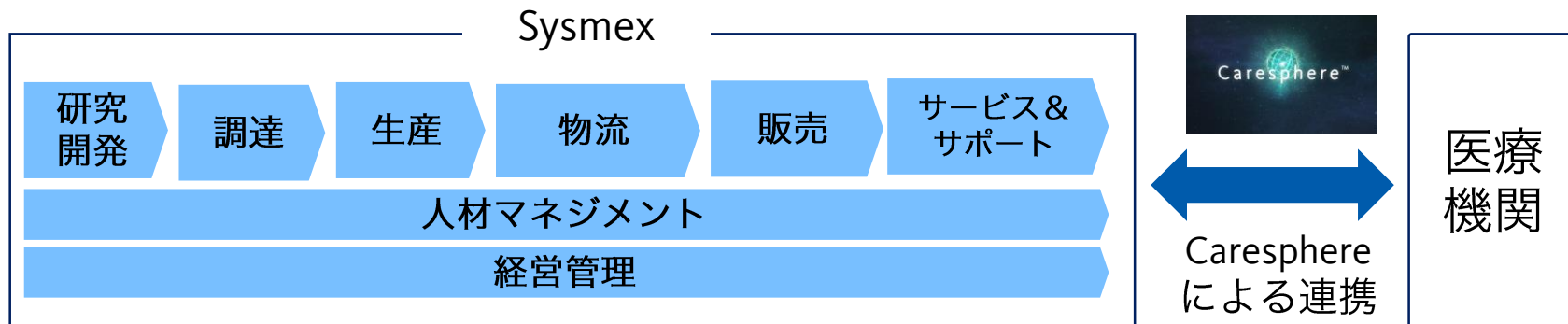


- ビジネス機会獲得の早期化へ向けた薬事・臨床開発機能の強化
  - 事業ポートフォリオ拡充への対応（IVD事業に加え、ライフサイエンス事業へ対応）
  - 専門人材の育成・獲得
  - 海外R&D拠点を活用したグローバルでの製品性能評価体制の強化

## デジタル化によるビジネスプロセス改革

### デジタル化によるグローバルなビジネスプロセスの改革

新製品開発プロセスの改革、サプライチェーンの最適化、  
情報セキュリティの強化など



## 人材マネジメントの変革による企業競争力の強化

グローバル人材マネジメントポリシー

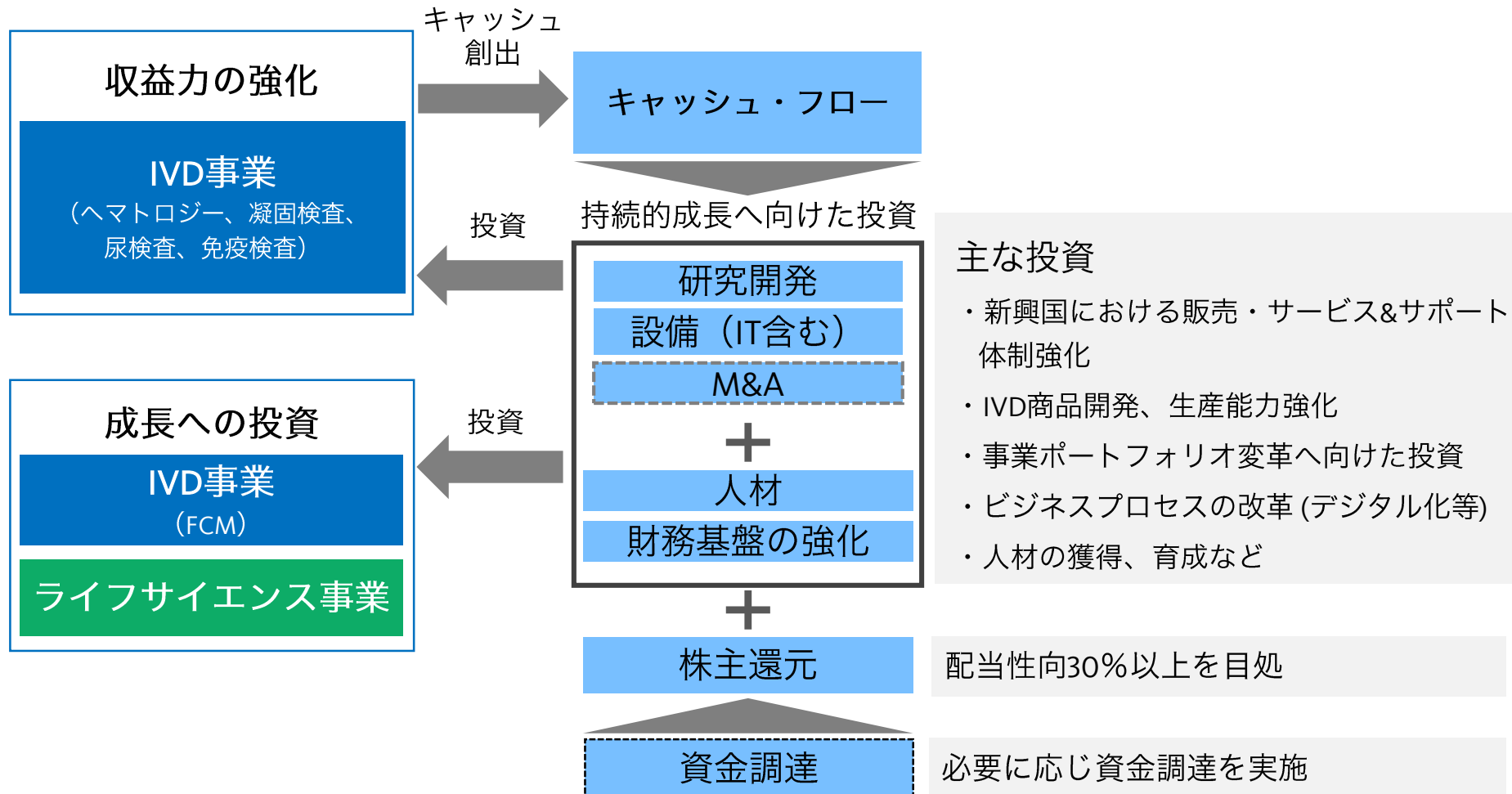
グローバル人材情報管理システム

IT活用による働き方改革の推進

持続的な成長を支える  
人材獲得・育成

# 財務方針（3年間）

継続的に投資を行い、キャッシュフロー創出力と資本効率を高めることにより、中長期の企業価値向上と継続的な株主還元を目指す





# 持続的な成長を支えるCSR課題への取り組み

- 非財務情報KPIとしてモニタリング

当社のCSR課題（マテリアリティ）	主なKPI	
製品・サービスを通じた医療課題解決   	事業活動を通じた医療課題解決	ヘマトロジー市場シェア
	製品普及等による医療アクセスの改善	新興国売上高比率
責任ある製品・サービスの提供  	サプライチェーンの評価・管理	CSR調査数
魅力ある職場の実現  	働きやすい職場環境の確保	エンゲージメントスコア
	働きやすい職場環境の確保	離職率
	人材の育成	労働災害度数率／労働災害強度率
	ダイバーシティの推進	平均教育時間
環境への配慮    	製品ライフサイクルにおける環境配慮	CO <sub>2</sub> 排出量の削減率 (機器製品使用時／出荷物流)
		水消費量の削減率 (機器製品使用時)
	事業所活動における環境負荷低減	CO <sub>2</sub> 排出量の削減率 (事業活動)
		水消費量の削減率 (事業活動)
ガバナンス  	コンプライアンス	内部通報件数
		倫理違反件数

4.

2020年3月期 業績予想

## 2020年3月期 連結業績予想

売上高 **3,200億円**

営業利益 **640億円**

営業利益率 **20.0%**

親会社の所有者に帰属する当期利益 **420億円**

当期利益率 **13.1%**

### 投資計画

設備投資 **140億円**  
(有形のみ)

減価償却費 **240億円**  
(IFRS16適用による  
リース会計基準の変更含む)

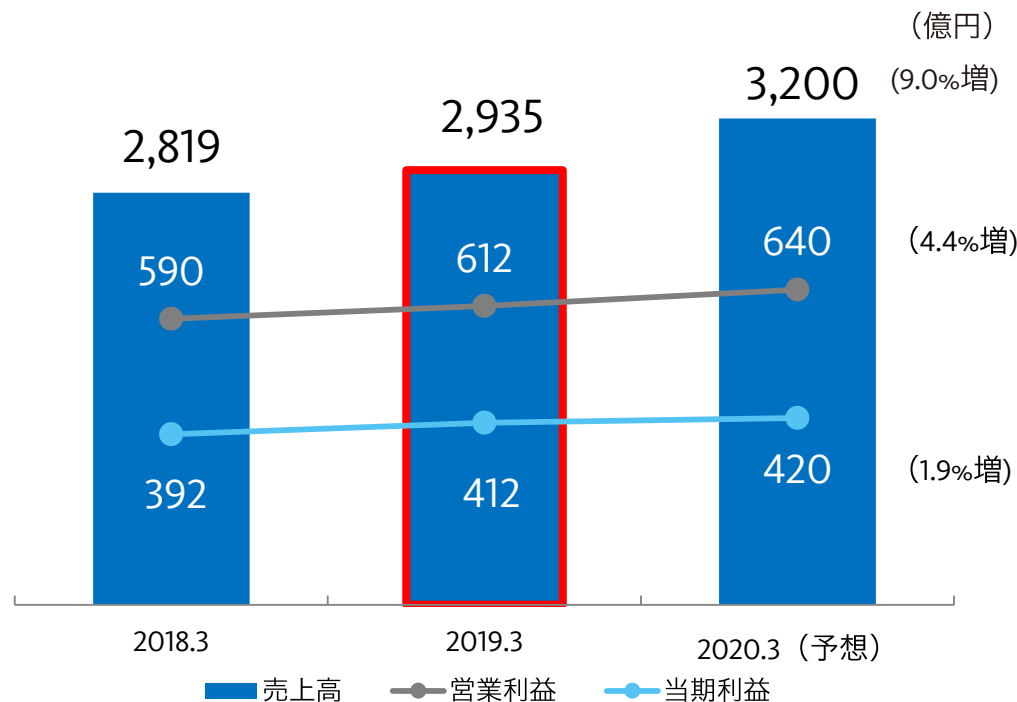
研究開発費 **220億円**

### ● 想定為替レート

	通期想定	前期実績 (19年3月期)
1 USD	110.0円	110.9円
1 EUR	125.0円	128.4円
1 CNY	16.5円	16.5円

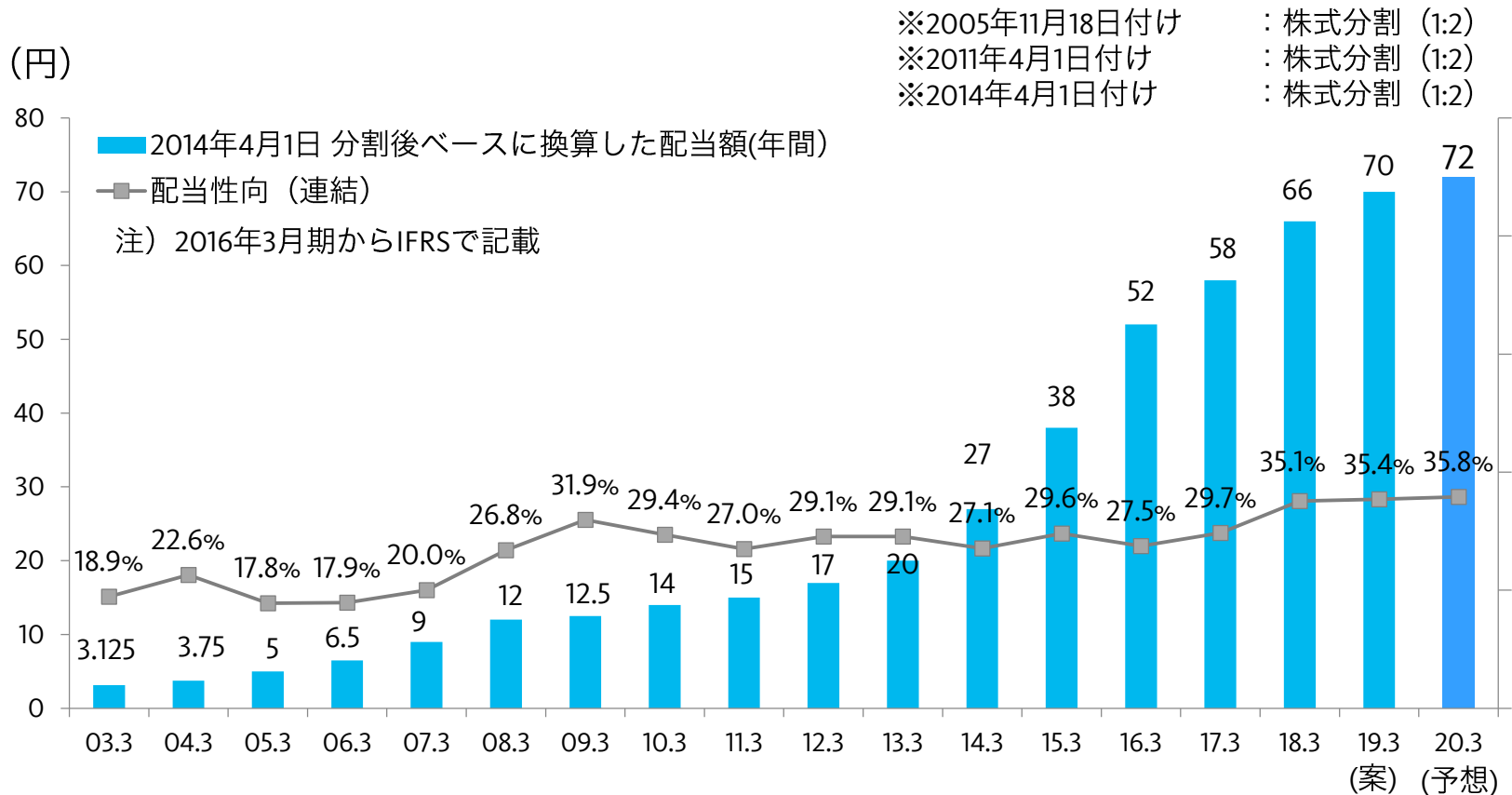
### ● 為替感応度の概算値

	売上 (年間)	営業利益 (年間)
USD	6.3億円	7.0億円
EUR	4.5億円	1.1億円
CNY	52.3億円	4.1億円



# 配当：18期連続の増配 (2020年3期予想)

シスメックスは、安定的な高成長を持続させるための積極的な投資と、収益性の向上に伴う株主の皆様に対する利益還元との適正なバランスを確保することを目指しております。株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向30%を目処に配当を行ってまいります。



# (補足資料) 2019年3月期決算

# (参考) 特殊要因控除後の対前期伸長

## 売上高

(億円)	前期	2019年3月期	対前年
売上高	2,819.3	<b>2,935.0</b>	104.1%
為替影響		<b>+40.7</b>	
合併解消による影響 ※1	△15.4		
OGT取得影響		△8.8	
IFRS15適用		△1.9	
中国試薬値上※2		△3.9	
特殊要因調整後売上高	<b>2,803.9</b>	<b>2,961.0</b>	<b>105.6%</b>

## 営業利益

(億円)	前期	2019年3月期	対前年
営業利益	590.7	<b>612.8</b>	103.7%
為替影響		△1.8	
合併解消による影響 ※1	△8.2		
減損損失	+10.7		
OGT取得影響		△0.6	
IFRS15適用		△1.9	
厚生年金基金解散	△16.6		
特殊要因調整後営業利益	<b>576.6</b>	<b>608.4</b>	<b>105.5%</b>

## 親会社の所有者に帰属する当期利益

(億円)	前期	2019年3月期	対前年
当期利益	392.2	<b>412.2</b>	105.1%
為替影響		△1.2	
合併解消による影響 ※1	△14.3		
減損損失	+10.7		
OGT取得影響		△0.5	
IFRS15適用		△1.5	
厚生年金基金解散	△11.8		
米国税率変更	+7.5		
源泉税還付		△3.5	
特殊要因調整後当期利益	<b>384.3</b>	<b>405.3</b>	<b>105.3%</b>

※1 2017年10月末に合併会社の株式をバイオメリュー社に売却  
当期利益には、株式売却益影響+8.4億円含む

※2 2017年6月に試薬値上を開始

## (補足資料) 中期経営目標

# 分野別売上



(億円)

	2019年3月期	2020年3月期	
			伸長率
ヘマトロジー	1,816	1,926	+ 6.0%
凝固	479	519	+8.2%
尿	210	224	+6.3%
免疫	139	167	+20.0%
生化学	31	32	+0.3%
FCM※	15	30	+95.0%
その他	137	132	-
IVD事業	2,831	3,030	+7.0%
ライフサイエンス事業	103	170	+64.1%
合計	2,935	3,200	+9.0%

2022年3月期	
	CAGR (3年間)
2,160	+5.9%
615	+8.7%
255	+6.6%
255	+22.4%
35	+3.1%
80	+73.3%
140	-
3,540	+7.7%
260	+35.9%
3,800	+9.0%

※2020年3月期よりIVD事業へ区分（前中計ではネクストコアに区分）



(億円)

	2019年3月期	2020年3月期	
			伸長率
米州	705	767	+8.8%
EMEA	756	804	+6.2%
中国	782	871	+11.4%
AP	250	276	+10.3%
日本	440	482	+9.4%
合計	2,935	3,200	+9.0%

2022年3月期	
	CAGR(3年間)
896	+8.3%
935	+7.3%
1,087	+11.6%
352	+12.0%
530	+6.3%
3,800	+9.0%

(現地通貨)

	2019年3月期	2020年3月期	
			伸長率
米州 (百万ドル)	635	697	+9.7%
EMEA (百万ユーロ)	590	643	+9.0%
中国 (百万元)	4,736	5,278	+11.5%

2022年3月期	
	CAGR(3年間)
814	+8.6%
748	+8.2%
6,587	+11.6%

(想定為替レート)

USD	EUR	CNY
110.0円	125.0円	16.5円

# 所在地別PL（売上高・営業利益）



(億円)

		2019年3月期	2020年3月期	2022年3月期
米州	外部売上高	659	716	824
	営業利益	35	38	44
EMEA	外部売上高	776	828	977
	営業利益	70	71	85
中国	外部売上高	781	871	1,087
	営業利益	91	87	103
AP	外部売上高	247	274	350
	営業利益	31	31	40
日本	外部売上高	470	511	562
	内部売上高	1,078	1,171	1,409
	売上高	1,549	1,682	1,971
	営業利益	389	415	510

Lighting the way **with diagnostics**